

## 地球に生きるわたしたち ～地球の反対側で見つけた「日本」～

学校所在府県：奈良県

学校名：奈良市立都跡中学校

名前：山本 紗哉加（社会）

実践教科：社会・道徳

指導時数：9 時間

対象学年：中学 2 年生（3 クラス）

対象人数：95 人

### 1. 教師海外研修を通して感じたこと

教員を目指していた頃から憧れていた教師海外研修。昨年度参加の先生方に出会い、研修で見聞きしたことを、目を輝かせて語る先生方の姿から刺激をいただき、参加への決意が固まった。以前から開発教育に関心があり、実践にもチャレンジしてきたが、国際協力の具体像が思い浮かんでいなかった。今回の研修では、国際協力の現場を視察する機会に多く恵まれ、地球規模で協力し合うことや、課題を解決していくことの重要性を感じた。

またブラジルでは、熱帯雨林を守る人、健康を守る人、子どもの人権を守る人など、さまざまなブラジルに生きる人に出会った。その中でも一番心に残っているのが、日系人との出会いである。今までの私なら、日系人を日系人として一括りにして生徒に話をしていたかもしれない。私たちの人生がそれぞれ違うように、日系人も一人ひとりの背負ってきた人生は違う。そんな当たり前のことを、授業で扱う時にはうっかり忘れてしまいがちになることに気づいた。現地での研修を終えて、日系人それぞれの今の生活や仕事、背負ってきた人生に触れ、共感し、涙し、勇気づけられた経験が、今の私にはある。これも一部だけれど、本物を見てきた“私”を通すことで、生徒たちの他人事意識が薄まり、関心の高まりがうかがえた。

そして、この研修では、関西で開発教育に取り組む先生方に出会うことができた。事前研修から共に学び、意見を交わしてきた先生方は、勉強家で、さまざまなことに挑戦している人たちであった。開発教育を学ぶ喜び、実践する喜びや難しさなどを共感できる仲間に出会えたことは、私の大きな財産となり、励みになった。

### 2. カリキュラム

#### (1) 実践の目的・背景

生徒は中学 1 年生の社会科の授業で、児童労働など、自分たちの身近な物の背景にある窮状を学習してきた。また先進国の生活スタイルが、途上国の水や食糧を奪う結果を招いていることも学習した。しかしこの時点では、「悲しい」、「かわいそう」という感想で留まっている生徒が多数であった。そこで 1 2 月には、カンボジアで観光客からチップを稼ぐ少年との出会いを切り口に、貧困の構造と自立に向けた支援について考える授業を行った。その单元の中で生徒たちは、子どもにお金をあげることへの疑問や、「自分たちがよいと思っていることが、相手にとっては迷惑なことになることがある」という感想を持っている。感情で動くのではなく、冷静に長期的な視点で物事を見られるようになってきた。自分の視点だけでなくさまざまな立場の視点で物事を考えられるようになってほしいと願っている。

指導にあたっては、プロセスを大切にしたいと考えており、アクティビティを積極的に行い、生徒が自分たちの五感で感じ、考え、主体者意識を持って学習課題に取り組んでいけるようにする。また振り返りの時間において、生徒一人一人が振り返りシートに記入するとともに、2～3人の少人数で行うマイクロラボを用いて、自分の変容や他者の変容などに互いに気づき合い、伝え合う時間として大切にさせたい。

## (2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<p><b>1・2 時限目</b> ブラジルってどんな国？</p> <p>*ブラジルに関心を持つ。 *ブラジルの文化的背景を知り、貧困・移民の歴史・黒人差別にふれる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ブラジルの基本的事項を調べる（位置・面積・人口・人種・言語・気候・通貨など）。</li> <li>●授業者が教師海外研修で訪れたルートを、写真を使って迎える。</li> <li>●国旗の意味を考える。</li> <li>●事前に実施していた「ブラジルと聞いてイメージするもの」のアンケート結果を発表し、その中でも多く挙げたサッカー・コーヒー・サンバの文化的背景を説明する。</li> <li>●マイクロ・ラボの手法を用い、学びの振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地図帳</li> <li>●パワーポイント</li> <li>●リアル</li> <li>●サンバホイッスル</li> <li>●アゴゴ</li> <li>●コーヒーカップ</li> <li>●ワークシート①</li> <li>●振り返りシート①</li> </ul>
<p><b>3・4 時限目</b> 人種のシチュエーション ～日本とブラジルのつながり～</p> <p>*ブラジルの中に日本があり、日本の中にブラジルがあることに気づき、2国間のつながりを意識する。 * JICA の国際協力と、課題の解決に向けて働く人の存在を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●グループで、複数の写真をブラジルと日本に分類する。</li> <li>●ブラジルの課題に対して、JICA が行っている国際協力を知る。</li> <li>●マイクロ・ラボの手法を用い、学びの振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●パワーポイント</li> <li>●写真カード</li> <li>●ワークシート②</li> <li>●振り返りシート②</li> </ul>
<p><b>5 時限目</b> この実何の実？気になる実 ～ブラジルの農業～</p> <p>*アマゾン熱帯で育つ作物に関わる日本人の存在を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ブラジルに関するモノ＆フォトランゲージをする。</li> <li>●アグロフォレストリーの農法と、それに関係する小長野さんについて知る。</li> <li>●マイクロ・ラボの手法を用い、学びの振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●パワーポイント</li> <li>●現地で購入したいろいろな実</li> <li>●説明カード</li> <li>●写真カード</li> <li>●DVD「世界 ナゼそこに？日本人 ～知られざる波瀾万丈伝」</li> <li>●ワークシート③</li> <li>●振り返りシート③</li> </ul>
<p><b>6 時限目</b> 二つの故郷の間で ～ブラジルに渡った日本人～</p> <p>*日本人のブラジル移民の歴史を知る。 *ブラジルで生きる日系人の人生にふれる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本人がブラジルに移民した歴史的背景と、ブラジルでの暮らしについて知る。</li> <li>●授業者がブラジルで出会った日系人の苦労やブラジル社会での活躍を、人物カードを通して知り、それを伝える。</li> <li>●マイクロ・ラボの手法を用い、学びの振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●パワーポイント</li> <li>●DVD「笠戸丸移民物語」</li> <li>●人物カード</li> <li>●ワークシート④</li> <li>●振り返りシート④</li> </ul>
<p><b>7 時限目</b> 二つの故郷の間で ～日本にデカセギにきた日系ブラジル人～</p> <p>*ブラジルから日本へ、デカセギとして人の移動があることを知る。 *日本で暮らす日系ブラジル人の抱えている問題について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本の外国人労働者が増加している背景を知る。</li> <li>●デカセギとして日系ブラジル人の労働者が増加したことに伴う問題点を考える。</li> <li>●マイクロ・ラボの手法を用い、学びの振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●パワーポイント</li> <li>●映画「孤独なツバメたち」</li> <li>●ワークシート⑤</li> <li>●振り返りシート⑤</li> </ul>
<p><b>8 時限目</b> ゲストティーチャーを招いて</p> <p>*日系ブラジル人の話を聞き、日本での生活について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●奈良県在住の日系ブラジル人をゲストティーチャーにお迎えして、日系ブラジル人の日本での暮らしについてお話を伺う。</li> <li>●マイクロ・ラボの手法を用い、学びの振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ワークシート⑥</li> <li>●振り返りシート⑥</li> </ul>
<p><b>9 時限目</b> 地球に生きるわたしたち</p> <p>*地球市民として生きる意識を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「私は〇〇です」と自己紹介の文を考える。</li> <li>●アイデンティティという視点から、隣に外国人が引越してきた時、自分たちができることを考える。</li> <li>●マイクロ・ラボの手法を用い、学びの振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ワークシート⑦</li> <li>●振り返りシート⑦</li> </ul>

### 3. 授業の詳細

#### 1・2 時限目：ブラジルってどんな国？

ねらい…ブラジルに関心を持つ。

ブラジルの文化的背景を知り、貧困・移民の歴史・黒人差別にふれる。

##### ◆内容◆

- ① ブラジルの基本的事項を調べる（位置・面積・人口・人種・言語・気候・通貨など）。
- ② 授業者が教師海外研修で訪れたルートを、写真を使って辿る。
- ③ 国旗の意味を考える。
- ④ 事前に実施していた「ブラジルと聞いてイメージするもの」のアンケート結果を発表し、その中でも多く挙がったサッカー・コーヒー・サンバの文化的背景を、授業者の説明を聞く。

1位 サッカー	5位 肌が黒い
2位 アマゾン川	6位 リオのカーニバル
3位 コーヒー	7位 日本の反対側
4位 サンバ	
- ⑤ マイクロ・ラボのやり方を説明し、その手法を用いて学びの振り返りをする。

##### 生徒の反応

- ▶ ブラジルのコーヒーってタダ！？いいなあ。
- ▶ 先生はサンバ見た？

##### ！ココがポイント

毎回の自分と仲間の学びを丁寧に振り返ることで、学びによる変容に気づかせたい。

##### 生徒の感想

- ▶ ブラジルではコーヒーにミルクを入れないことに驚いた。
- ▶ サンバは誕生したときからブラジル全体の文化だと思っていたけど、最初は禁止されていたと聞いてびっくりした。
- ▶ サンバは、みんな踊れると思っていたけれど、踊れない子が多くて意外だった。

◆所感◆ 黄色のTシャツを着て、楽器を演奏する授業者の登場に最初は戸惑っていたが、生徒たちはブラジルに接することにわくわくしている様子だった。ブラジル文化の中でも特に、楽しいイメージを持っていたサンバの歴史に驚いていた。

#### 3・4 時限目：人種のシチュエーション ～日本とブラジルのつながり～

ねらい…ブラジルの中に日本があり、日本の中にブラジルがあることに気づき、2国間のつながりを意識する。

JICAの国際協力と、課題の解決に向けて働く人の存在を知る。

##### ◆内容◆

- ① グループでさまざまなモノや風景の写真を観察し、ブラジルで撮影されたものと日本で撮影されたものに分類する。

##### 生徒の反応

- ▶ 鳥居だけれど、車のナンバープレートが日本と違うからブラジル？
- ▶ ポルトガル語が書いてあるから絶対にブラジルの写真だ！えっ、日本なの！？

##### ！ココがポイント

ブラジルの中にたくさんの日本らしさがあることと共に、日本の中にもブラジルがあることを提示することで、後の移民、そしてデカセギの学習につなげる契機とする。

- ② 日本とのつながりのあるブラジルの課題を解決するために、JICA が行っている国際協力を知る。
- ・ 交番プロジェクト
  - ・ オンダリンパ事業
  - ・ アマゾン水銀汚染モニタリングプロジェクト
  - ・ ブラジル国立宇宙研究所
- ③ マイクロ・ラボの手法を用い、学びの振り返りをする。



ブラジル？日本？

## 生徒の感想

- ▶ 日本の写真とブラジルの写真をわけるのは思ったより難しいことだと驚きました。
- ▶ ブラジルの警察官が青年と笑顔で写っている写真が心に残った。
- ▶ アマゾン川の汚染はブラジルだけの問題でなく、国際的問題ということが心に残った。

◆所感◆ 生徒たちは、ブラジルの中に鳥居やお寿司があることに驚いていた。ブラジルのガソリンスタンドの「エタノール」の文字に1年生の南アメリカ州の学習内容のバイオエタノールを、愛知県豊田市の保見団地内のスーパーに2年生の中部地方で学習した外国人労働者の話を結びつけて考えている様子だった。

## 5時限目：この実何の実？気になる実 ～ブラジルの農業～

ねらい…アマゾンの熱帯で育つ作物から、アグロフォレストリーの農法を知る。  
小長野さんから、日系人のブラジルでの活躍を知る。

### ◆内容◆

- ① モノ&フォトランゲージ（ブラジルナッツ・コショウ・アサイー・カカオ）
- ② アグロフォレストリーとブラジルの農業を支える小長野さんの活躍について知る。
- ③ マイクロ・ラボの手法を用い、学びの振り返りをする。



使用したモノ&フォト

◆所感◆ 生徒たちはコショウなどの実のなり方を知らないことに驚いた。現地のモノに興味津々の様子で、触って、嗅いで五感で感じようとしていた。そのような生徒の様子を見て、もう少しゆっくり時間を確保してあげたほうがよかったなと思った。



## 6時限目：二つの故郷の間で ～ブラジルに渡った日本人～

ねらい…日本人のブラジル移民の歴史を知る。  
ブラジルで生きる日系人の人生にふれる。

### ◆内容◆

- ① 日本人がブラジルに移民した歴史的背景と、ブラジルでの暮らしについて知る。
- ② 授業者がブラジルで出会った日系人の苦労やブラジル社会での活躍を、人物カードを通して知り、それを仲間で伝え合う。
- ③ マイクロ・ラボの手法を用い、学びの振り返りをする。



移民募集のポスター

◆所感◆ 日系人と一括りにはできず、さまざまな人生があること、そして、たくましく生きた人には温かさがあつたことを感じ取ってもらえたらと願っている。

## 7時限目：二つの故郷の間で ～日本にデカセギに来た日系ブラジル人～

ねらい…ブラジルから日本へ、デカセギとして人の移動があることを知る。  
日本で暮らす日系ブラジル人の抱えている問題について考える。

### ◆内容◆

- ① 日本の外国人労働者が増加している背景を知る。
- ② デカセギとして日系ブラジル人の労働者が増加したことに伴う問題点を考える。
- ③ マイクロ・ラボの手法を用い、学びの振り返りをする。

## 8時限目：ゲストティーチャーを招いて

ねらい…日系ブラジル人の話を聞き、日本での生活について考える。

### ◆内容◆

- ① 奈良県在住の日系ブラジル人をゲストティーチャーにお迎えして、日系ブラジル人の日本での暮らしについてお話を伺う。
- ② マイクロ・ラボの手法を用い、学びの振り返りをする。

## 9時限目：地球に生きるわたしたち

ねらい…地球市民として生きる意識を育てる。

### ◆内容◆

- ① 隣の人、東京の人、中国の人、宇宙人に対して、「私は〇〇です」と自己紹介の文を考える。
- ② アイデンティティという視点から、隣に外国人が引越してきた時、自分たちができることを考える。
- ③ マイクロ・ラボの手法を用い、学びの振り返りをする。

### ! ココがポイント

自己紹介をするという場面を、近くから、規模を大きくしていくことで、地域約にを超えて、地球に生きているということ意識させたい。

## 4. 成果

ブラジルに生きる人と出会ったことによって、私の考え方が変わった。社会科の学習内容として選ばれている知識は、人間の営みの一部が切り取られたものであり、すべてではない。「アメリカ人は」「ブラジルとは」と一つにまとめることは本当はできない。そんなことを思うようになった。教科書の中で取り上げられているブラジルよりももっと現実的でいて、そして温かさのあるブラジルを生徒と共に体感できた。誰かが選んだ知識よりも、自分で開拓したことの方が面白い。そういう点で、モノランゲージやフォトランゲージは、生徒の五感で学びを開拓することに有効であったと考えている。機会があれば、また新たな題材でチャレンジしてみたい。

## 5. 課題

あれもこれもと授業に盛り込んでしまい、計画していた時数を大幅に超過してしまった。精選する必要があった。また、生徒と自分に温度差があるのは当然だが、その温度差を感じると苦しかった。実際現地で出会い、その人の温かさや強さに触れて初めて突き動かされる何かができるものだ。私のこの夏の経験を通して、学習内容そのものを超えて、自分の目で、肌で、心で感じ、行動したいという思いが少しでも生徒たちの心の中に芽生えたのなら、私の種まきは大成功である。

### 参考資料

- ・ 参考文献  
アンジェロ・イシ「ブラジルを知るための56章」明石書店 2010  
田中克佳「踊る！ブラジル 私たちの知らなかった本当の姿」小学館 2014  
秋山芳郎「日本を元気にする国ブラジル」早稲田出版 2011  
宮沢和史「足跡のない道」マガジンハウス 2008
- ・ 参考および使用映像・楽曲  
VTR「世界 ナゼそこに？日本人 ～知られざる波瀾万丈伝」  
DVD「笠戸丸移民物語 100年の証言」佐藤嘉一  
映画「孤独なツバメたち」2012  
THE BOOM「風になりたい」  
GANGA ZUNBA「足跡のない道」